

奥田勇輝先生の「自ら考え、意欲的に取り組む学習を目指して」について

愛知教育大学 青山和裕

奥田先生の実践では、生徒一人一人が自分の考えを発表できるようになることを通じて、数学の楽しさを感じるとともに、意欲的に学習に取り組めるようになることがねらいとされている。

これを実現するための具体的な方法として、「しゃべり場タイム」という生徒が自由に発言できる時間を授業内で設定している。そこでは生徒が安心して発言できるように話型やルールを設けるなど細かな配慮もなされている。実践報告からは、生徒が答えを発表だけでなく、どのように考えたかを説明したり、同じ問題に対して別の考え方や解き方を説明したりする様子がまとめられており、しゃべり場タイムが効果を上げていることがわかる。また特に、自分の考えが誤っていたことを受け止め、友達の説明から理解できたことを発表する生徒がいて、このような関わり合いができていることは評価に値する。数学の授業に対して、単に問題を解いて正解かどうかを判定するだけという向き合い方ではなく、解き方や各自のアイデアを共有し、みんなで一緒に理解して進んでいこうという姿勢が感じられる。

このように奥田先生の試みは一定の成果を上げていると思われるが、今後に向けてさらに心がけてほしい事柄が何点かある。まず1点目は、しゃべり場タイムを通じて話し合う内容についてである。報告からは基本的な問題と解に関して共有し合うところがまとめられているが、この話し合いを通じて数学的な高まりが生み出される「練り上げ」のようなものへとつなげるための進め方の工夫があるとさらに良い。あるいは、正解が定まらない問題へと試行錯誤して取り組んでいく力も必要であるため、そういった場面でみんなで意見を出し合って取り組んでいくような話し合いも展開してもらいたい。

2点目は奥田先生が課題として挙げている発表できずにいる生徒への対応についてである。意欲がなくて発表しないのであれば確かに改善を促したいところであるが、生徒には元々口下手であったり、人前で話すのが苦手な子もいるはずである。表現力を伸ばすことは大事であるが、皆が一様に発言できるようになるはずはなく、また発言が少ない生徒はやる気がない、あるいは能力や資質が不足していると断じてしまうのは可哀想である。その生徒なりの表現力を伸ばしつつ、できれば周りの生徒が口下手な生徒へ配慮し、意見を聞きだすようにする方が健全である。一緒に勉強する仲間として、積極的に意見を出さなければいけないアイデアを持っているかもしれないという敬意を持たせることが大切だと思われる。

最後に3点目は、「学び合い」の質を高めてもらうことである。できる生徒がそうでない生徒に教えるという関わり合いではなく、みんなの意見を寄せ集めつなぎ合わせることで、それぞれの生徒にとって新しい発見や学びが生み出されること、それが学び合いの本質である。奥田先生のこれまでの経験を足場に、今後は次の段階を目指してさらに研究を進めていってもらいたい。